

## 1 直接支援（R2.4～12月末）

### (1) 相談支援（所内相談）

相談受案件数		695件
内訳	来所相談	495件
	電話面接	200件

※R2.4月中旬～5月初旬までコロナ感染拡大防止のため来所面談を延期。



- (2) 居場所づくり支援（青年期の集い）：参加延べ人数80名  
 (3) 社会体験事業：体験人数2名・2事業所（最大3日間）

## 2 地域支援（R2.4～12月末）

### (1) ひきこもり支援者連絡会議

- ア 全体会議：講話及び各関係機関からの事業説明や情報提供など  
 31名参加  
 イ ブロック別会議：3ブロックごとに、関係機関の事業・活動報告や意見交換  
 ……【中央】32名 【西】29名 【東】21名参加 計：82名参加

### (2) 関係機関支援（所外）

- ア 関係機関とのケース会議、勉強会、業務検討会（随時実施）  
 いの町（4回）・須崎市（3回）・中土佐町（1回）・四万十町（1回）  
 幡多福祉保健所管内（2回）  
 イ 若者サポートステーションとの定期的な検討会（4回）  
 ウ 市町村ひきこもり支援に関する調査（対象市町村：34市町村）  
 市町村支援の充実のため、事前アンケート調査を実施のうえ各市町村に訪問し、ひきこもり支援の現状と課題、求める支援について聴取。  
 併せて、ひきこもり地域支援センターとの情報共有を行った。



## 3 人材養成（研修等）（R2.4～12月末）

### (1) ひきこもり支援者人材養成研修

- ア 講演会『ひきこもりと発達障害～ひきこもり支援に発達障害特性の理解を活かすために～』 54名参加  
 講師：高橋 秀俊氏  
 （高知大学医学部寄附講座児童青年期精神医学 特任教授）  
 ※講演会前に黒潮町役場にてケース検討会を実施（参加者15名）  
 イ DVD貸出による受講研修『CRAFTを応用した家族支援』  
 40名参加（実施中）講師：境 泉洋氏（宮崎大学教育学部 准教授）  
 ウ 事例研究を通じた研修（開催予定）

### (2) 令和2年度 地域保健総合推進事業（共催）

『地域包括システムによる中高年層のひきこもり支援研修会』 113名参加  
 講師：原田 豊 氏（鳥取県立精神保健福祉センター 所長）

## 4 普及啓発（その他）（R2.4～12月末）

### (1) ひきこもりに関する普及啓発

- ・今年度はコロナウィルス感染拡大防止のため、高知県内のひきこもり本人や家族、支援者などからの意見・作品を募集し、Web（ひきこもり地域支援センターホームページ）上にて掲載することで、交流会を実施。
- ・今年度中に冊子として作成予定。

### (2) 普及啓発・技術支援

ひきこもりに関する講演会、研修会の講師 派遣回数：6回



### (3) ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会関係業務

会長業務を中心に、新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響と実態について、全国ひきこもり地域支援センターへのアンケート調査を行った。

・課題……現在、定期的にひきこもり地域支援センターや福祉保健所が参加しているケース会議はあるが、市町村からは「ブロック毎にアドバイザーがほしい、事例を通じた勉強会を行ってほしい」等、情報交換連携の場作りに向けた要望がある。

・対策……令和3年度は、ひきこもり地域支援センターによるスーパーバイズを継続。加えて、各福祉保健所が実施する管内市町村等との勉強会や情報共有の場（各ブロック年2回程度）へ協力、支援を行う。

# 令和2年度の取り組みについて（高知県ひきこもりピアサポートセンター）

## 1 事業概要

相談窓口の多様化を図るため、元ひきこもり当事者が中心となったピアサポートセンターによるひきこもりの人や家族へのピア相談、アウトリーチ型の訪問支援等を行う。  
※ピア…同じ立場・背景の仲間の意

### ① ひきこもりの人及び家族へのピア相談支援

- ・ 週5で開所する対面相談窓口の開設、随時の電話相談、Web相談窓口の設置

### ② ひきこもりの人へのアウトリーチ型支援

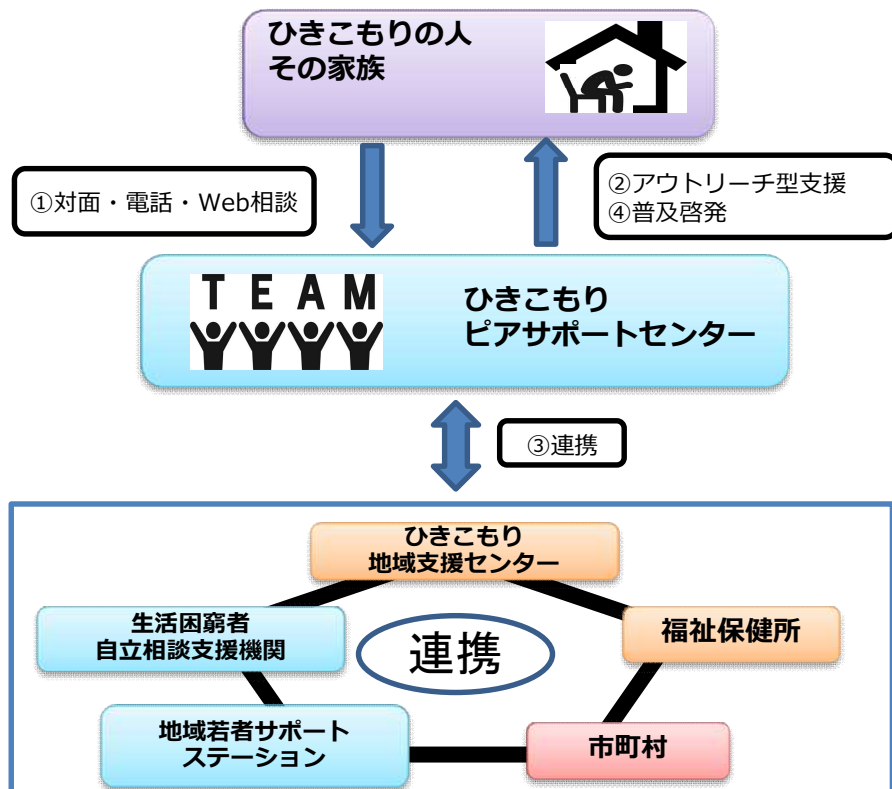
- ・ 相談者の意向を踏まえ、ピアサポーターが家庭訪問によるピア相談を実施し、居場所への誘因を図る。

### ③ 福祉・サポステ・ひきこもりの人の居場所その他の支援機関と連携した支援

- ・ 社会参加につなげるための他の支援機関へのつなぎや支援の受入等

### ④ ひきこもりの人への正しい理解を普及するための啓発活動

- ・ リーフレットの作成、新聞広報、ホームページの整備等



## 2 業務体制

業務委託先：KHJ全国ひきこもり家族会連合会高知県支部やいろ鳥の会

設置力所数：2カ所 本部（高知市）、幡多サテライト（宿毛市）

人員体制：本部 8名（センター長、事務職員、ピアサポーター）  
幡多サテライト 1名

## 3 実績（R2.4～R3.1）

・相談件数（累計）363件（電話151件、メール58件、訪問65件、来所面談89件）

※当事者の年齢別相談件数（親からの相談の場合は、当事者の年齢区分にカウント）

10代	20代	30代	40代	50代	60代	不明	合計
3	98	131	68	46	4	13	363

・相談ケース数（前年度から委託先と関係があった者も含む）96ケース

・新規相談ケース数 50ケース

・居場所への参加や関係機関による対応につながった件数 25件

①当事者：13件（居場所、B型作業所、農家など）

②家 族：12件（居場所、家族サロン、精神保健福祉センター、親の会など）

・課題…ピアサポーターにとっても支援の初年度ということもあり、初回相談をその後の継続相談や関係機関へ十分つなげないケースがあった。また幡多サテライトについては、1名体制で開設が夕方から夜間であるため、利用者等から日中気軽に相談にいける場所がほしいとの要望があった。

・対策…令和3年度は、ピアサポーターに対する研修・フォロー体制を充実させるとともに、幡多サテライトについては、ピアサポーターを増員し、日中も気軽に相談することができるよう事務所常駐スタッフを配置する。

# 令和2年度の取り組みについて（就労サポートセンターかみまち）

## 1 事業概要

ひきこもり者等就労支援コーディネーター（障害者への対応についてノウハウを有する者）を配置し、ひきこもり者等のアセスメントや個々の特性に応じた就労に向けた支援を行う。

- 対象  
就学・就労から離れ、原則6ヶ月以上ほとんどの時間を自宅で過ごしている方
- 支援内容
  - ①ひきこもりの人等の心身の状態に応じた情報提供及び就労支援
  - ②関係機関との連絡調整
  - ③ひきこもりの人等の状況や課題に応じた支援メニューの作成及び支援
  - ④就労体験等の受入先となる企業等の開拓
- 業務体制  
業務委託先：NPO法人ブルースター（就労サポートセンターかみまち）  
設置力所数：1カ所（高知市）  
人員体制：3名（管理者、面接担当、コーディネーター）

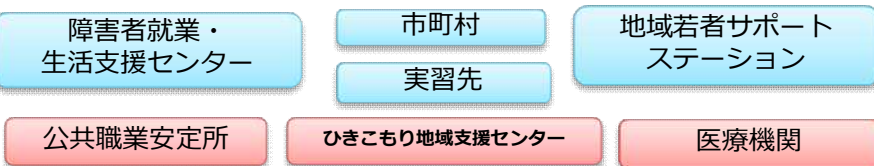
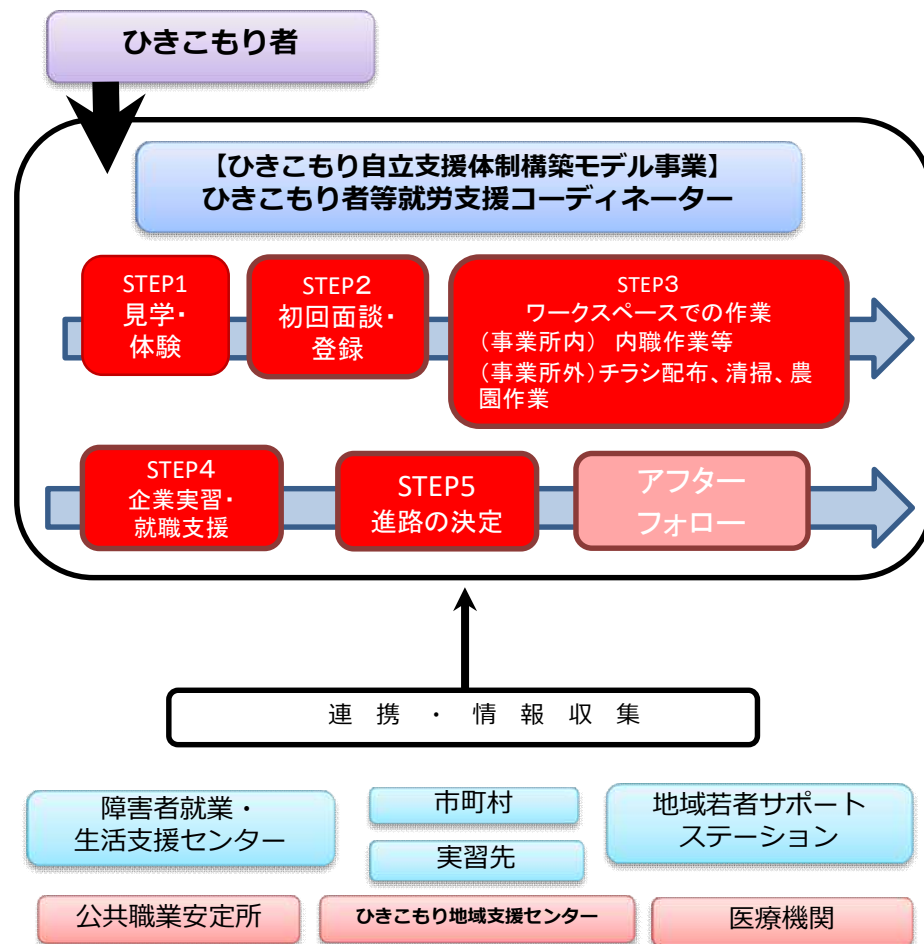
## 2 実績(R2.4～R2.12)

- ・見学者数 13名（当事者9名、家族4名）
- ・体験者数 15名
- ・登録者数 10名（年齢内訳 20代：6人、30代：3人、50代：1人）
- ・就職者数 1名（農業 出荷場）
- ・企業実習、企業見学

企業実習者	企業見学者	見学先
1名	1名	中山農園
3名	3名	岡林農園

### ・企業開拓

実習受入企業	実習内容
マルサ花卉農園 株式会社	ゆりの植え付け、育成、収穫、出荷までの一連作業
岡林農園	農作物の袋詰め
近澤製紙工場	生け花の保水シート作成作業（内職作業）
ウッドカンパニー	各種内職作業
中山農園	農作物の植え付け、育成、収穫、出荷の一連作業



・課題・・・支援の「step1」「step2」…と、それぞれの段階で息の長い支援が必要であり、長い支援期間において、利用者の意欲が途切れないようにするためのインセンティブが必要。

・対策・・・令和3年度からは、実習を行った利用者に対しインセンティブを支給する制度を創設するとともに、受け入れ事業者の開拓にも取り組み、さらに幅広い業種や地域の事業所に実習体験を受け入れてもらうように努める。

# 令和2年度の取り組みについて（ひきこもり支援活動実践交流会）

## 1 目的

県内におけるひきこもりの人やその家族への支援については、高知県ひきこもり地域支援センターや各相談支援機関をはじめ、個人や民間団体などによって活動が実施されているが、その活動内容は広く認知されてはいない。

そのため、県内のひきこもり支援活動実践者による発表の場を設け、取組の内容を周知することにより、ひきこもり支援についての理解を深め、実践者相互の交流を図るとともに、相談支援機関等との連携、ひきこもりの人やその家族が相談支援に繋がるきっかけとする。

## 2 実施概要

- (1) **開催日時** 令和3年1月25日（月）13:30～15:45
- (2) **参加者数** 56名（市町村役場、市町村社協、民間支援団体、福祉保健所など）
- (3) **実施内容** 県内でひきこもり支援に関する活動を行う民間団体による活動内容の発表。（9団体）

発表団体	主な活動拠点	活動内容	主な対象者
一般社団法人エスポワール高知	高知市	生活支援・就労準備支援・寄り添い伴走支援	ひきこもり経験者・生きづらさを感じてる人・高齢化生活困窮家族
NPO法人生涯学習支援センター	高知市	利用者への職業指導。 訪問相談と居場所（農園とひこばえの居場所）	引きこもり、身体（一部の方）・知的・精神・発達障がい等
NPO法人ブルースター就労サポートセンターかみまち	高知市	ひきこもり者等就労支援（面接相談・作業提供・企業実習・就職支援・定着支援）	就学・就労から離れて、原則6か月以上、ほとんどの時間を自宅で過ごしている方
高知県教育相談研究会・はまゆう教育相談所	高知市	主に、子育て、不登校等の教育相談。研修会、創立記念研究発表会。不登校の子を持つ親の会。依頼研修会への講師の派遣。	児童生徒・保護者・教職員・一般
やいろ鳥の会	高知市	居場所、家族サロン、月例会（勉強会）、講演会、交流会（不定期）	ひきこもり傾向の方、家族、支援者
一般社団法人こうち絆ファーム	安芸市	就労継続支援B型事業所でのナス及びオクラの栽培から出荷迄の作業及び就労移行支援事業	3障害及びひきこもり等いきづらさを抱えた方々
集いの広場なないろ	宿毛市	居場所	ひきこもり当事者、家族
NPO芸農人	黒潮町	居場所、学習支援、訪問支援、親の会、ピアサポート交流会、ひきこもり食堂、体験教室、就労支援、シェアハウス、心理カウンセリング	不登校・ひきこもり当事者とその家族
青い空ぽっこぼう〜ん（大月町若者を元気にする会）	大月町	居場所、親の会	当事者、親（家族）、経験者

## 3 参加者へのアンケート結果

○今後ひきこもり支援を行う上で参考になったか。  
返答のあった40名の内、92.5%が参考になったと回答。

○今後連携したい団体はあったか。  
返答のあった34名の内、64%が今後連携したいと思う団体等があったと回答。

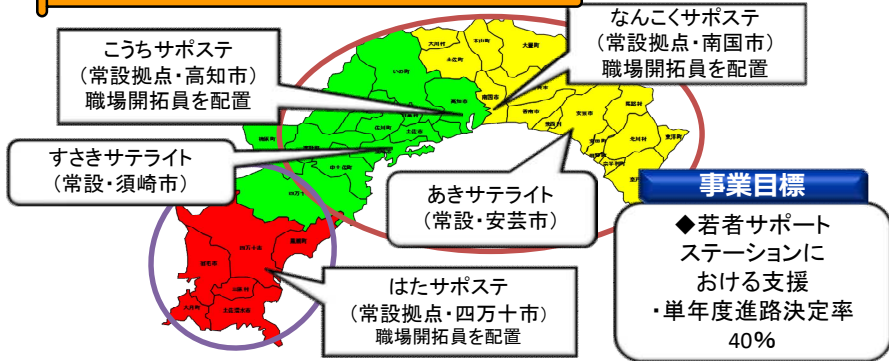
○その他感想・ご意見

- ・ひきこもり支援に関わっている団体が、こんなに沢山あったことに驚いた。居場所ややりがい、経験ができる場所が必要だと感じました。
- ・その場、人だけで支援するには限界があるため、ない所をおぎない困った時に助けあえる横のつながりが大切であると思う。

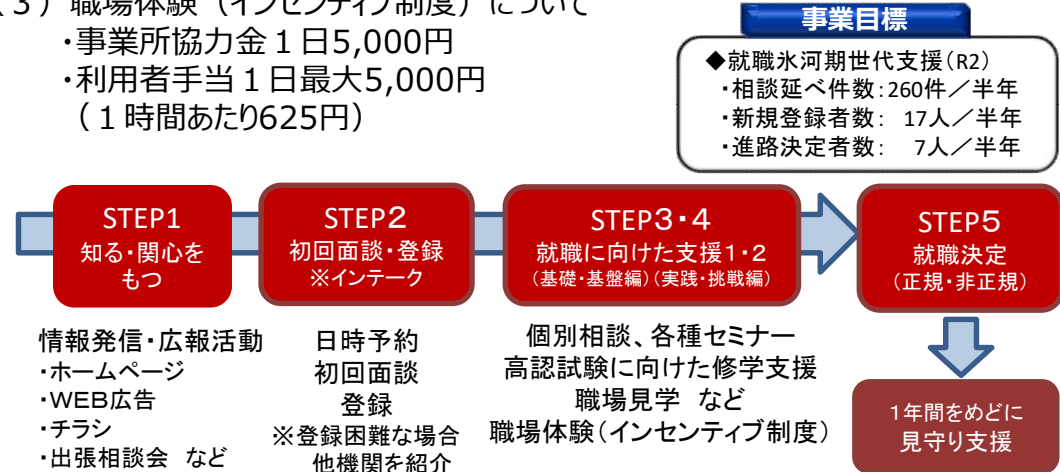
## 1 事業概要

中学校卒業時や高校中途退学時の進路未定者、ニートやひきこもり傾向にある若者、及び就職氷河期世代（概ね40歳代）のうち長期間無業であった方やひきこもり傾向にある方に対して、「若者サポートステーション」を核とした修学や就労に向け支援を行うことで、社会的自立を促進する。

### 若者サポートステーションの支援体制



- 令和2年度からの新たな取り組み 就職氷河期世代支援（概ね40歳代）
- (1) R2.4～：49歳まで就労支援を広げる（サポステ・プラス）。
  - (2) R2.10末～：地域就職氷河期世代支援加速化交付金を活用し、事業拡大。
  - (3) 職場体験（インセンティブ制度）について
    - ・事業所協力金 1日5,000円
    - ・利用者手当 1日最大5,000円（1時間あたり625円）



## 2 取り組み実績（12月末現在）

（事業全体）

- ・相談延べ件数 7,372件
- ・新規登録者数 252人
- ・進路決定者数 170人（就職147人、修学23人）
- ・利用者の年齢別人数 10代91人、20代109人、30代31人、40代21人
- ・セミナー等参加延べ人数 808人
- ・学習支援参加延べ人数 480人 ※高卒認定試験合格者数 10人

（40代支援）

- ・相談延べ件数 101件
- ・新規登録者数 6人
- 相談のきっかけは、関係機関からの紹介、親族・知人からの紹介の順。1月に入ると、WEB広告やTV放送がきっかけで相談するケースも。
- ・インセンティブ制度の活用状況 0件
- ・進路決定者数 3人（正規1人、非正規2人）
- ※ひきこもり傾向にある方の集計はしていないため、割合は不明。

・課題…多様な支援対象者に対し、効果的な支援が行えるよう支援関係者の資質向上に努める必要がある。

・対策…若者自立支援セミナー・相談会（7月）社会的自立に困難を抱える若者の理解促進と支援方法を周知し、支援に向けた意識の向上を図る。支援を必要とする若者や家族のための個別相談会も行う（若者サポートステーション）。

若者はばたけプログラム活用研修会 若者支援担当者を対象に、カウンセリング基礎、やる気向上プログラム、SSTプログラム活用講座を実施し、「若者はばたけプログラム」の内容や実施方法等、知識や技術を身につける研修を行う。次年度は、就職氷河期世代の支援者を対象とし開催する予定。